

令和7年度
青森中央学院大学 別科助産専攻
一般入学試験問題

母性看護学

注 意

- (1) 解答用紙および問題用紙に受験番号、氏名を記入すること。
- (2) 解答用紙は、鉛筆で記入してさしつかえない。
- (3) 解答は、解答欄にのみ記入すること。
- (4) 下書きには、問題用紙の余白を使用すること。
- (5) 解答用紙は、一枚しか配付しない。
- (6) 試験終了後、解答用紙および問題用紙を持ち帰らないこと。

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

I 以下の理論と概念について、正しいものには○、誤りには×を記入しなさい。

- ① リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念では、性行為の可否、出産の時期、子どもの数を自己決定する女性の権利を保障している。
- ② 女性を中心としたケアは「尊重」「安全」「ホリスティック」「パートナーシップ」の4つの特徴がある。
- ③ 患者と家族を中心としたケアの特徴に「情報の共有を基盤に家族が望むレベルでケアや意思決定に参加することを奨励、支援するケア」がある。
- ④ 母性は女性のライフサイクルにおいて存在し、その多くは先天的に発達するものととらえられている。
- ⑤ ルービンがいう母親役割の適応過程である受容期は産褥3日～10日目頃までをいう。

II 以下の各問いに答えなさい。

問1 わが国の妊産婦死亡について、正しいものを2つ選び、番号で答えなさい。

- ① 妊産婦死亡率とは出生数+妊娠満22週以後の死産数(1年間の出産数)10万に対する妊産婦死亡数で表す。
- ② 直接産科的死亡とは、妊娠・出産中に分娩後出血や産科的塞栓症などで死亡した事例をいう。
- ③ 間接産科的死亡とは、子宮外妊娠や妊娠、分娩及び産褥期における高血圧症障害が原因となって死亡した事例をいう。
- ④ 近年、統計では扱われてこなかった妊娠期から産後1年未満の妊産褥婦の自殺が、産科に関連する妊産婦死亡数より多いことがわかった。

問2 母子保健統計について、誤っているものを2つ選び下線部を正しく修正しなさい。

- ① 新生児死亡率は1年間の出生数を分母としている。
- ② 2023年合計特殊出生率は1.57で最低値である。
- ③ 早期新生児死亡率は生後28日未満の死亡をいう。
- ④ 全死産のうち人工死産率は自然死産率を上回っている。

問3 母子保健法に基づく規定について()内に適切な語句を記入しなさい。

- ① 妊娠が診断されたら母子保健法により()に妊娠の届け出をする。
- ② 妊娠の届け出に対し()を交付することが規定されている。
- ③ 妊娠30週で妊婦健康診査を受けた場合、次回の健康診査は()週間後である。
- ④ 産後ケア事業で産後ケアを受ける場合、()型、()型、()型の実施方法がある。
- ⑤ 産後ケア事業の利用期間は原則()日以内である。

Ⅲ 以下の各問いに答えなさい。

問1 性周期とホルモンについて正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 思春期になると卵巣からゴナドトロピン放出ホルモン（GnRH）が分泌される。
- ② 卵胞は成熟するにしたがい、黄体形成ホルモン（LH）が急激に低下して排卵が起きる。
- ③ 排卵後の高温期は14日前後である。
- ④ 排卵後、黄体はエストロゲンを分泌し基礎体温を上げる。

問2 妊娠の成立について正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 排卵によって卵子は卵管采で受精する。
- ② 精子の受精能力は射精後12時間である。
- ③ 卵子は受精後24時間で着床する。
- ④ プロゲステロンは妊娠の成立・維持に重要な働きをもつ。

問3 妊娠末期に比べ、妊娠初期に高値を示すホルモンを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① プロラクチン
- ② エストロゲン
- ③ hPL
- ④ hCG

問4 妊娠期間の定義について、次に示す出産時期の週数を書きなさい。

- 1. 早産：妊娠（ ～ ）までの出産
- 2. 正期産：妊娠（ ～ ）までの出産
- 3. 過期産：妊娠（ ）以降の出産

Ⅳ 次の事例について、以下の保健指導内容で正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

17歳の高校生。身長158cm。最近6か月で体重が60kgから13kg減少した。

4か月間無月経を主訴に受診した。以前、月経痛が強かったため、本人は深刻に考えていない。母親が心配して一緒に来院した。性交経験はないという。

- ① 本人に自覚がないので、今後も母親と受診するように説明した。
- ② 第一に適正体重の回復を目的とすることを伝えた。
- ③ 摂食障害があるのかどうか食生活について確認した。
- ④ 思春期なので月経不順はよくあることだと安心させた。

V 性感染症について正しいものを2つ選び、番号で答えなさい。

- ① 女性の場合、性器クラミジア感染症は不妊や流産の原因になることがある。
- ② 性感染症はパートナーの治療が必要のないものがある。
- ③ 全ての性感染症を予防するには、コンドームの正しい使用が有効である。
- ④ 梅毒と性器クラミジア感染症は他の感染症の動向と違い増加傾向にある。

VI 次の事例について、適切な対応を1つ選び、番号で答えなさい。

Aさん 62歳。咳やくしゃみをするとう尿が漏れるという主訴で外来を受診した。

- ① 常時、尿漏れがあるわけではないので、しばらく様子を見てよいと話した。
- ② 骨盤底筋群の体操を紹介し、毎日継続するよう勧めた。
- ③ 水分摂取を控えるなどの予防行動をとることが大切であることを伝えた。
- ④ 腹圧性尿失禁と考えられるので、いずれ手術が必要であることを伝えた。

VII 以下の文章中の（ ）内に適切な語句を記入しなさい。

分娩3要素とは産道、娩出力、娩出物である。娩出物には（ ① ）および（ ② ）がある。（ ② ）とは（ ③ ）、（ ④ ）、（ ⑤ ）、羊水 がある。

分娩進行には（ ⑥ ）が大きく関与するといわれており、（ ⑥ ）も含めて分娩4要素という。

児頭が産道を通過する際に骨と骨が互いに重なり（ ⑦ ）となる。このことにより狭い産道を通過する。これを児頭の（ ⑧ ）という。

VIII 陣痛に関する以下の文章について、（ ）内に適切な語句を記入しなさい。

1. ブラクストン-ヒックス収縮とも呼ばれる妊娠期におこる不規則な弱い子宮収縮で、痛みを伴わない陣痛を（ ① ）という。
2. （ ② ）とは、妊娠10か月において比較的頻繁に起こり、しばしば痛みを伴う不規則な収縮をいう。
3. （ ③ ）とは、分娩時にみられる子宮収縮をいい、開口期陣痛、娩出期陣痛、後産期陣痛に分類される。
4. （ ④ ）とは、子宮収縮時間と間欠時間を合わせたものである。
5. 産褥期に不規則におこる子宮収縮を（ ⑤ ）という。

IX 分娩進行に関する次の事例について、以下の問1から問4に答えなさい。

Bさん(29歳 初産)、39週6日、0:00不規則な腹部の緊張と粘稠性の血液の混じったおりものがあった。2:00から陣痛周期10分となり、4:00に入院した。

入院時の内診所見は、子宮口開大3cm、展退度70%、下降度-1、子宮口の位置は中央、硬度は中であった。

その後陣痛が増強して順調な分娩進行と診断され、11時45分の診察で子宮口が8cm開大となった。助産師が12時に配膳に行くとBさんは額に汗をかき側臥位で「陣痛が辛くて何も飲んだり食べたりしたくありません」と言っている。陣痛発作時は強い陣痛と努責感を訴え、目を硬く閉じて呼吸を止めて全身に力を入れている。

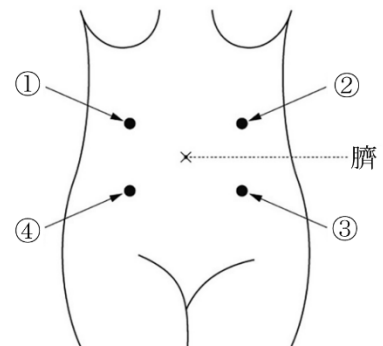
問1 Bさんの入院時のビショップスコアを答えなさい。

問2 Bさんへの看護で最も適切なものを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 坐位になるように勧める
- ② シャワー浴を勧める
- ③ 食事摂取を促す
- ④ 呼吸法を促す
- ⑤ モニター装着のため仰臥位で過ごすように促す

問3 モニターを装着するためにレオポルド触診法で胎児の胎位胎向を確認し、第2頭位と判断した。児背は母体の前方へ向かっている。

1. この時の胎児心音良好聴取部位を右図から選び、番号で答えなさい。



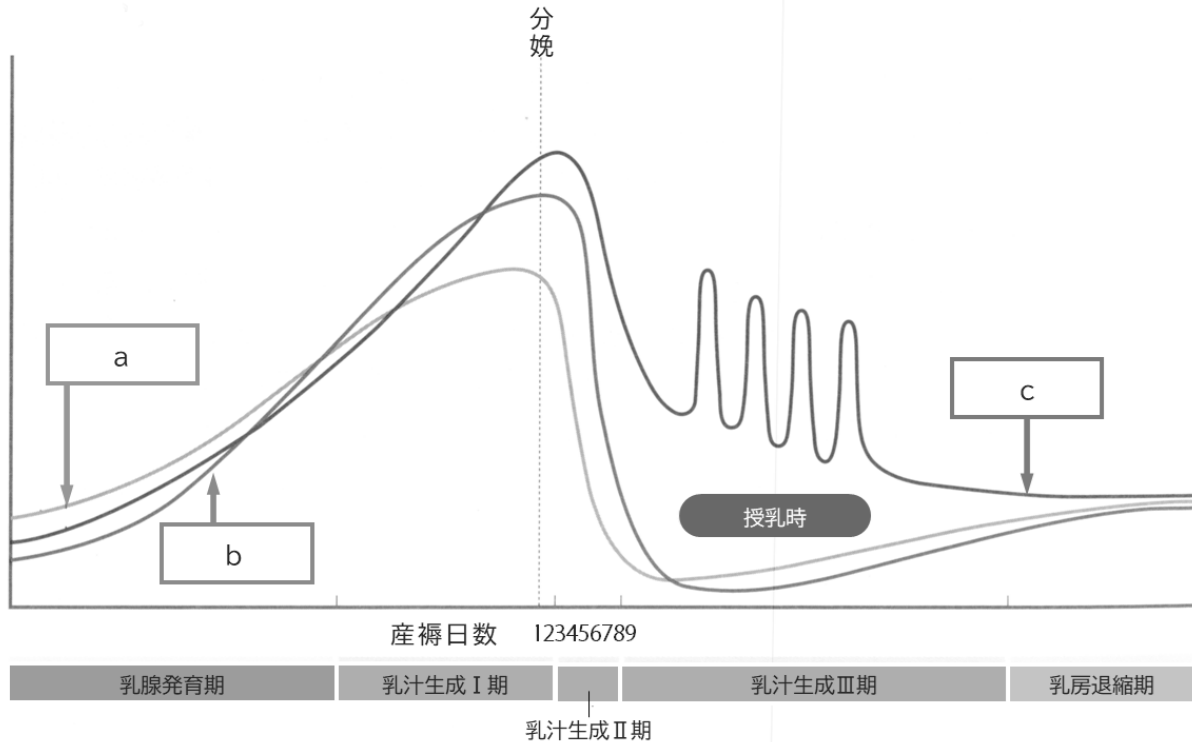
2. 下線部の状況における胎児の分類を書きなさい。

問4 Bさんの以下の状況について、各問いに答えなさい。

Bさんは15:00子宮口全開大となったため分娩室へ入室し分娩監視装置を装着し、分娩の準備を行った。16:00自然破水、有効な努責があり16:15児娩出となった。15分後臍帯付着部のある面から胎盤は娩出した。

- 1. Bさんの分娩開始時間を答えなさい。
- 2. Bさんの分娩所要時間を答えなさい。
- 3. Bさんの胎盤娩出様式を答えなさい。

X 図は母乳にかかわるホルモンの分泌を表している。cのホルモン名を答えなさい。



XI Cさん(30歳 初産婦)は、妊娠39週5日で2400gの男児(Dちゃん)を正常分娩で出産した。Cさんの分娩経過から産褥経過の状況を読み、以下の問いに答えなさい。

問1 以下の状況について、各問いに答えなさい。

児は出生直後、激しく啼泣があり、四肢は屈曲している。四肢末梢にチアノーゼを認めたが体幹がピンク色であった。5分後の児の状態は心拍数150回/分、四肢を屈曲させ、清拭をすると激しく啼泣している。全身はピンク色である。

1. Dちゃんのアプガースコア1分と5分を採点しなさい。
2. Dちゃんのアセスメントで正しいものを2つ選び、番号で答えなさい。

① AGA児である	② SGA児である
③ 血糖値をチェックする必要がある	④ 直接哺乳は実施不可である

問2 以下の状況におけるDちゃんへの看護で適切なものを1つ選び、番号で答えなさい。

出生後1時間後のDちゃんの状態は、直腸温37.0℃、呼吸数40回/分、心拍数120回/分、経皮的酸素飽和度SpO₂ 96% (room air) 四肢冷感やチアノーゼは認めない。
Cさんは、会陰裂傷はなく、医師の診察は終了し状態は良好である。

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| ① 酸素を投与する | ② ラジアントウォーマー(インファントウォーマー)上で保温する |
| ③ 早期母子接触を行う | ④ 人工乳を補足する |

問3 以下の状況におけるDちゃんのアセスメントで正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

生後3日目。Dちゃんを観察したところ、体温37.1℃、心拍数132回/分、心雑音なし、呼吸数42回/分で胸部と腹部が同時に上下している。皮膚には胸部と殿部に中央に丘疹があり、直径1cm程度の紅斑が数個点在している。経皮ビリルビン5.8mg/dℓ、薄く黄色い尿を8回/日、便は4回/日であり泥状で緑色のなかに黄色い顆粒が混じっている。体重は2180g(前日比-63g)であった。授乳回数は12回/日で出生後から一度も人工乳を補足していない。

- ① 体重減少率は2.8%である
- ② 中心性紅斑がある
- ③ 人工乳の補足を考慮する
- ④ 光線療法の必要性がある

問4 以下の状況における、Cさんのアセスメントで正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

Cさんの分娩経過は正常であり、陣痛開始から胎盤娩出までの出血量は250mlであった。分娩後2時間が経過し、Cさんは軽度の下腹部痛を訴えている。子宮底は臍下2横指、硬度良好であり出血量は20mlであった。

- ① 分娩時総出血量は250mlである
- ② 子宮復古を促すため冷罨法が必要である
- ③ 弛緩出血である
- ④ 子宮復古は良好である

問5 以下の状況における、Cさんのアセスメントで正しいものを1つ選び、番号で答えなさい。

産褥2日目、Cさんは体温36.8℃、脈拍67回/分、血圧110/72mmHg、子宮底は臍下2横指に硬く触れた。悪露は赤色で少量、悪臭はないが授乳時に下腹部痛がある。下肢の浮腫は認めなかった。乳房は腋窩付近にやや緊満が見られ、乳管開口数は左右とも3本で黄色い乳汁がジワリと分泌している。Cさんは、母乳でDちゃんを育てたいと考えているが、「おっぱいがでてくれるか心配です」と話している。

- ① 子宮復古が遅延している
- ② 子宮内感染徴候がある
- ③ 乳房の変化は産褥日数相当である
- ④ うっ滞性乳腺炎が生じている

問6 以下の状況における、Cさんのアセスメントで正しいものを2つ選び、番号で答えなさい。

産褥4日目、Cさんは血圧112/80mmHg、脈拍76回/分、Hb11.2g/dℓ、Ht37%。子宮底は臍下4横指に硬く触れる。悪露は赤褐色で少量であり凝血の混入や悪臭はない。乳房は緊満しており粘稠性のある黄色の乳汁が分泌している。Cさんは「夜中も3時間ごとくらいに授乳をしているためほとんど眠れていません」と話している。表情は穏やかである。

- ① 貧血である
- ② 子宮復古は順調である
- ③ 移行乳の分泌がある
- ④ マタニティブルーである